6月園だより

２０２０年度 年主題　〈こころが満たされる〉

0･1･2歳児６月主題　「ふれる」

月のねがい

◎保育者の祈る姿に接する(0)
◎絵本や歌にふれ、心地よさを感じる(0)
◎周りの人やものに興味をもち、関わろうとする(0)
◎保育者の祈りのことばに心を合わせようとする(1.2)
◎好きな場所、人、ものに関わろうとする(1.2)
◎思いや主張やこだわりを認められ生活する(1.2)

3･4･5歳児６月主題　「やってみる」

月のねがい

◎園生活の中で、折に触れて賛美し祈る。(3)
◎砂・泥・水などで遊ぶ楽　しさや、様々な感触を経験する。(3)
◎興味を持ったことに保育者や友だちからの共感を得て、なお喜んでする。(3)
◎礼拝に参加することに喜び、聖　書のお話に関心をもつ。(4.5)
◎砂･泥･水･絵の具など様々な素材を使って、身体を存分に使いながら遊ぶ。(4.5)
◎友だちとのぶつかりが増え、思いを伝え合って遊ぶ。(4.5)

今月の聖句　「讃美をもって主に喜びさけぼう」

詩篇９５：２

長男が産まれた時、私は妻の出産に立ち会いました。陣痛が始まってから、ほぼ24時間かかる難産でした。陣痛が来る度に、そして、その痛みが強くなるにつれて、妻の叫びは強くなり、妻は別人となりました。その間、夫である私は何も出来ません。ただ見守るだけです。けれども、振り返ってみると、その妻のために、又、動揺する自分自身のために出来たことが一つだけありました。それは神さまに祈るということでした。「神さま、妻と産まれてくる子どもを守ってください」とただひたすら祈り続ける私がおりました。

人が苦境に立たされる時、祈りという道が備えられていることは、なんと幸いなことでしょうか。６月の聖書の言葉は旧約聖書の詩篇から取られています。この詩篇は信仰者の祈りの言葉を集めたものです。この詩篇の祈りの言葉に触れて、「これは私が言葉にしたかった祈りだ！」と目からウロコが落ちることが沢山あります。

なぜ「私の唇はあなたを賛美します」と祈れるのか。その言葉の前には「あなた〔神さま〕の恵みはいのちにもまさる」からだと言われています。私たちにいのちを与える神は、そのいのちを育む環境をも与えて下さる方です。神さまの恵みに満ちた環境が用意されています。忙しい日々の生活の中では見えなかったものが、神さまに祈る中でその恵みに気付かされることがあります。こども園では子どもたちに「主のいのり」を教えます。幼い頃から、神さまを意識して祈ることによって、子どもたちもまた周りにある神さまの恵みに気付くのです。

協力牧師　池田基宣

６月の行事予定

２日（火）	**弁当日**
１０日（水）	**弁当日**
１１日（木）	6月誕生会
１７日（水）	歯科検診(13:30～)
２７日（土）	もも組誕生会(4~6月生)

７月の行事予定

２日（木）	海あそび(4.5歳)･**弁当日**
４日（土）	夏祭り？,**弁当日(2.3号)**
８日（水）	七夕事業所訪問
９日（木）	海あそび(2.3歳児)
１６日（木）	７月誕生会
１７日（金）	１学期終園式(1号:午前保育)
18･19日	お泊まり保育（年長児）

ちょうちょになって

ままと　いっしょに
ちょうちょに　なって
おそらを　とびたいな
それでね
きれいな　おはなに
とまって
「うふふ」って
わらうの

田中　美桜（４歳）

少しずつ広がる関わりの世界

紫陽花が色づき始め梅雨の時期を迎えます。子どもたちは新しいクラスになって2ヶ月が経ちました。

小さいクラスのお友だちは、ここに何があるんだろう？これはなんだろう？と、保育室や園庭で毎日のように色々なものを触ったり、覗き込んだり…と探索に大忙しです。小さいお友だちが園庭で遊んでいると、お兄ちゃんやお姉ちゃんたちが“一緒に遊ぼう”と手を差し出してくれます。一緒にすべり台を滑ったり、緑のお家でままごとをしたりと、よく遊んでくれます。給食の時間が近づき「お部屋に帰るよー！」と声をかけても、なかなか帰ろうとしません。保育者が手を繋ごうとすると、プイッと他所を向いて『まだ遊びたい！』とアピールする子も…。でもお兄ちゃんたちが「ごはんだって！帰ろう」と手を繋ぐと、すんなり保育室に帰ってくる子どもたちです。子ども同士だと何か通じるものがあるのかなーと感じる日々です。お兄ちゃん、お姉ちゃんいつもありがとう！！

礼拝でみんなの前でお当番さんが自己紹介をしている時のこと。Aちゃんが緊張して言葉が詰まってしまいました。すると、隣のBくんが背中をやさしくさすってくれ、Aちゃんは深呼吸して自分の名前を言うことができました。さりげない優しさを感じるひとコマでした。4月、5月は自分のことで精一杯だった子どもたちですが、新しい環境に慣れお友だちとの関わりが少しずつ見られるようになってきました。でも時にはケンカになって手が出てしまうことも…今月のねがいのようにトラブルや意見のぶつかり合いを通して相手の気持ちを知り伝え合っていければ、もっともっと遊びの幅も広がっていくのでは？と楽しみです！

先日はフリー参観では子どもたちの普段の姿を見てもらうことができ嬉しく思います。忙しい中参加下さりありがとうございました。

大河

九月入学を考える

もうそろそろかなと思っていた矢先に梅雨入りが宣言されました。しばらくは、子どもたちと一緒に雨とお友だちになって楽しみたいと思います。また、先日はフリー参観に多数お越しいただいてありがとうございました。家族の日参観の中止に伴い、急遽計画したものでしたが、アンケートでは殆どの方から好評をいただき感謝でした。子どもたちの普段の活動や生活の様子を見ていただく機会を作ることが、如何に大切なことか改めて感じることでした。

新型コロナウイルス感染の問題は、人間の生死を始め、日常生活や雇用、経済などの社会活動全般に大きく影響を及ぼしています。地域によっては学校教育の遅れも深刻さを増しているようです。そこで、以前から議論はあったものの、何となく唐突に現れたのが九月入学。一応、早々の制度変更はなくなったようですが、南日本新聞の「論点」で十回にわたり各専門家のコメントが掲載されていました。確かに現時点では、進学や就職を控える最終学年生の不公平感から来る不安は計り知れず、しっかりとした対策は必要だと思います。ただ、必ず来ると言われている第二波の到来や終息時期が見えない今、入学時期の変更が一回で成り立つのか大いに疑問です。

さて、様々な立場からは賛否両論あるわけですが、率直に言えば、最も影響を受けるであろう就学前の教育・保育をどうするかの議論が置いて行かれているように思えます。来年九月、現在の年長児に加え、年中児の九月一日生まれまで、月齢が十七ヶ月違う子どもを新一年生とする案。または、その子どもたちを四月から八月まで「０年生」として小学校に迎える案があります。前者は、八月まで園に残る場合の教育・保育内容や保育室の問題もありますが、ただでさえ不足している有資格保育者のことを解決できるとは思えません。後者に至っては、年中児の約半数が幼児教育・保育の集大成の時期を経験しないまま卒園し、幼児教育を専門としない現場で、五歳児の教育は確実に担保されるのでしょうか。この機会に九月入学は議論が活発化しこの案も残るのでしょうが、幼児期の教育をあまり軽視しないでいただきたいと強く願っています。

さて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきているようです。日々の経験から得る「驚き」や「気づき」が興味を広げていきます。「先生、見て！来て！」と、自分の存在を認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

最後になりましたが、土曜日は多くの方に環境整備のご奉仕をいただいてありがとうございました。心地よい環境の中で、心身健やかに育つ子どもたちの笑顔が目に浮かびます。少々うつとうしい日々が続きますが、早寝・早起き・朝ごはんで元気に登園できますようご協力お願いいたします。

園長

乳幼児の育ちを小学校の学びにへつなげる
（幼小連携について）

先日、市の教育委員会が主催する「学力向上推進会議」に出会しました。市内の校長･園長等がメンバーとなり、子どもたちの育ちを語り合います。今春に入学した子どもたちの様子を聞いたり、小学校との連携の計画を立てました。昨年からの引継ぎ課題でもあった『メディア漬けの子どもたち』『ゲーム依存からくる生活リズムの崩れ』が話題の多くを占めました。実態として、就学前の幼児期から始める生活の中での意識づけが重要ではないかとの結論に至りました。

一昨年度、年長児の保護者会の中でも、「いけないとわかっていても、ついつい子どもがスマホゲームで遊んでしまって･･･」というお話が出ていました。子どもたちは、簡単に操作できるタブレットを使った遊びを覚えると、いつの間にかのめり込んでしまうようです。取り上げようものなら、泣き叫んで手が付けられない状態になり、少しだったらと、ついあてがってしまう悪循環のケースも多いのではないでしょうか。

子どもの発達にとって、あそびの質はとても大事なものです。乳児期から幼児期にかけては、自分の体を使って遊ぶ運動遊びを十分経験していくことが大切です。日中の明るい時間に、思いっきり体を使って遊び込み、クタクタになって家に帰ったらバタンと寝て･･、早寝早起き朝ごはんを守れることで、ゲーム遊びの隙間を入れられなくなるといいな～と思っています。

《幼児期の教育とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である》

- 自分の体を使って遊びこむ経験
- 友だちと体を使って遊びこむ経験
- 時間を保障されて遊びこむ経験

これらを経験していくことで、意欲が育ち、自己肯定感を育くみ、喜びと期待を胸に小学校へ進んでいける子どもになってほしいと願っています。

園では、1学期に小学校の様子を参観し、2学期に年長児の保育を小学校の先生に参観していただき、3学期には引継ぎ等を行って、スムーズな幼保こ小接続を進めて参ります。

圖師　愛